作者

川上弘美

昭和三十三（一九五八）年四月一日～。小説家。俳人。東京都に生まれる。昭和五十五（一九八〇）年、御茶の水女子大学理学部生物学科を卒業。在学中はＳＦ研究会に所属。卒業後、東京大学医科学研究所で二年間研究員を務める。同時期にＮＷ―ＳＦ社で編集に携わり、「季刊ＮＷ―ＳＦ」に自身の短編を掲載する。昭和五十七（一九八二）年から六十一年まで、田園調布雙葉中学校・高等学校で理科の教諭を務める。

文学活動

平成六（一九九四）年「神様」で第一回パスカル短編文学新人賞を受賞。七年、「婆」が第一一三回芥川賞候補作品になり、八年、「蛇を踏む」で第一一五回芥川賞を受賞。十一年、作品集としての「神様」で第九回紫式部文学賞、第九回 Bunkamura ドゥマゴ文学賞を受賞。十二年、「溺レる」で第一一回伊藤整文学賞、第三九回女流文学賞を受賞。十三年、「センセイの鞄」で第三七回谷崎潤一郎賞を受賞。

その後も精力的に著作活動を続け、平成十九（二〇〇七）年、「真鶴」で芸術選奨文部科学大臣賞を、二十七（二〇一五）年、「水声」で第六六回読売文学賞を、二十八年、「大きな鳥にさらわれないよう」で第四四回泉鏡花文学賞を受賞。また、三十一年には紫綬褒章を受章する。内田百閒の影響を受け、寓話的であり、幻想性と日常性が混じり合う独特の作風が特徴。エッセイや対談も多く、俳人でもある。

平成十八（二〇〇六）年から谷崎潤一郎賞、十九年から芥川賞、二十年から三島由紀夫賞の選考委員を務める。その他、文學界新人賞（平成十七年から十九年）、野間文芸新人賞の選考委員も務める。

作者を解くカギ

文壇デビュー作品となった「神様」は、初期の川上弘美を代表する作品であり、その後に続く作者独特の作風を顕著に表している。

川上弘美本人が様々な媒体で内田百閒を愛読していることに言及している通り、幻想と現実が混じり合う世界で、異界と日常の交流が描かれる物語は、幻想文学を現代リアリズムに溶け込ませたような筆致である。この異界と日常の境界線が消えてしまった独特の世界を成立させるには、曖昧で可愛らしい登場人物やキャラクターではなく、あくまでもリアルな存在が物語内に確かな説得力をもたせることが重要である。

「蛇を踏む」が芥川賞を受賞した際、同時に直木賞を受賞したのが乃南アサであったために、マスコミは女性作家の時代到来を喧伝した。その一方で、川上の作風が寓話にすぎないという批評もあった。このような評価もやはり、作者が内田百閒をはじめとする幻想文学に親しんでいたことの裏返しでもあろう。

短編集「神様」では、様々な不思議な存在と「わたし」との交流が描かれる。「わたし」による語りは、それら他者達へのまなざしであると同時に、「わたし」自身の他者性を写す鏡でもある。

作者は父の仕事の都合により、赴任先であるアメリカで五歳から七歳までの幼少期三年間を過ごした。一九六〇年代のアメリカ

公民権運動に象徴される社会のなか、言葉の通じない国でアジア人として異文化に出会った経験の影響が、作品にとしばしば登場する他者との交流として描かれているのだろう。

川上作品の特徴と言えば、その独特な文体である。幼少期から児童文学に親しみ、児童文学翻訳者である村岡花子、瀬田貞二、石井桃子などの言葉の影響を受けている。文語調の古風な言い回しや、独特なオノマトペ、本来片仮名の表記を平仮名にすることによって、物語世界に柔らか、優しさ、不思議な情景が生まれ、また登場人物たちの心理描写の機微も描き出している。

出典

本文は「神様」（中央公論社　平成十）によった。「離さない」が収録されている短編集「神様」は九つの作品からなる。いずれの作品にも人間とは異なる不思議な生き物が登場し、それら異種との交流や関わりを通して、人間社会や人間そのものを描き出している。

出典との異同

教科書表記の統一による変更のほか、〔　〕内の理由により、次の通り改めた。

○会話文の最後の句点を省略（全体）〔原文を尊重するため〕
○「めくらっぽう」→削除（原文Ｐ一七〇・7、教科書Ｐ二五三・2）〔教育上の配慮〕

参考文献

＊教師用

○川上弘美について
「さらば愛しき幻獣―川上弘美「神様」に」小谷真理
すばる　平成十・十二
「小説の書き方―私の場合」川上弘美
「早稲田文学」　平成十二・十一
「彼女たちは小説を書く」後藤繁雄　メタローグ　平成十三
「一部を書いて全部を書きたい　川上弘美」川上弘美
「広告批評」　平成十三・四
○人魚について
「人魚伝説」（「知の再発見」双書32）
ヴィック・ド・ドンデ著、富樫瓔子訳　創元社　平成五
○桜について
「桜の文化史」小川和佑　朝日文庫　平成三
「桜と日本人」小川和佑　新潮選書　平成五

＊生徒用

○人魚を題材にした作品
「ウォーレスの人魚」岩井俊二　角川文庫　平成十三
「人魚の血：珠玉アンソロジーオリジナル＆スタンダード」
井上政彦監修　光文社　平成十三
「幸福な王子」ワイルド　新潮文庫　平成十五
＊「漁夫と人魚」を収録。

「人魚の森」高橋留美子（漫画）　小学館　平成十五
○桜を題材にした作品
「桜の森の満開の下」坂口安吾　講談社文芸文庫　平成元
「檸檬」梶井基次郎　新潮文庫　平成十五
＊「桜の木の下には」を収録。